

令和4年度小松市立日末小学校 学校評価 1（年度末）

めざす児童生徒像

進んで学ぶ子 主体的に学び、思考過程を伝え合い、学びを深める子（思考過程の視覚化）
仲よく助け合う子 仲間と関わり合いながら、互いのよさを認め合い高め合える子（集団づくり）
明るく元気な子 自分の健康や命を大切に、何事にも根気よくチャレンジする子（心身の育成）

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
(学校で設定)	学校重点項目	認め合い、高め合う実現	学級活動・児童会活動 児童アンケート③の結果を90%以上にする	① 学級や学校がより良くなるように考えて行動していますか	年度末も目標を達成することができた。微減しているものの、「学級や学校がより良くなるように」と考える児童がさらに増えており、児童の思いと学級目標にズレが出ていることがえられる。	①のアンケート結果のように「学校がより良くなるように」と考える児童が増えたので、その思いが学級目標にも反映できるとより意識できると思う。学級目標について児童自身がふり返り、良いところを教師が教え、励ましていくようにしたり、達成した目標を更新したりするなど学級目標が活用できる場面を増やしたい。
				② 学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがありますか		
				③ 学級目標を意識して活動しましたか		
				集計		
	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
重点項目	石川県共通	業務改善 働き方や業務の改善	教職員アンケートを100%にする	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	見通しを持って業務に取り組んでおり、時間外勤務の削減はできている。学校組織の中の役割について、もっと創意工夫ができると感じている職員も見られる。	次年度に向けて今年度の取組を振り返り、さらに創意工夫して取り組むことを共通理解する。
				② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。		
				集計		

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	すべて100%にする	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	アンケート項目①は2名、②は1名の肯定的ではない回答があり、達成には至らなかった。 肯定的な回答が得られなかった2名の教員の方は、どちらも学校研究に対してとても協力的であり、一生懸命取り組んでくださった姿が見られるため、学校で目指す授業スタイルに対して、とても厳しい目で検証してくださった結果と考えられる。	学校研究で目指している姿を想起させる場として、学期末や研究会でその都度行ってきたが、目指す姿だけでなく、現在の具体的な姿を語る場をもつと設置していく。
				② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。		
				集計		
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	③について、児童・教員アンケートの結果90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	③について、児童アンケート88.9%、教員アンケート77.8%と目標指数90%に及ばなかった。 教員については、一学期に比べ10ポイント以上上昇しており、否定的な回答をした教員は2名であった。 児童に関しては、否定的な回答をする児童は7名であった。	教員については、上記のように、目指す授業像・児童像を共有する機会を増やしていく。 児童に関しては、否定的な回答をする児童が毎年、固定されてきているので、その児童を全教員で共有し、学校生活全体で自己肯定感をあげる声掛けを行い、授業中の発言にも自信をもてるようにしていく。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。		
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。		
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。		
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの実感を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。		
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。		
				集計		
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②の平均が中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	①は、100%②は、91%で目標指標を達成した。②が中間評価より9%下がってしまったのは、学校力向上ロードマップ、カリキュラムマップでの評価・改善が、年度の後半になるほどに形式的になってしまったためと考えられる。	年度末には、来年度の教育課程編成にむけて、学校力向上ロードマップ、カリキュラムマップの見直しを確実にやっていく。
				② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。		
				③ 全教員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。		
				④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)		
				集計		
		家庭学習	①「家で計画を立てて勉強している」②「家庭学習で学習用端末を活用する」80%以上にする。	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	①②共に、目標指標を達成した。①は、94%の児童が肯定的に答えている。家庭学習を計画的に進めることができているためか、家庭学習の習慣化も図られている。②に関しても、タブレット持ち帰り学習が習慣化し、キュビナ、skymenyu等を活用した学習が実践できている。	家庭学習については、児童の宿題の習慣化が継続するよう取組、声掛けを行っていく。学習用端末の持ち帰り学習も継続して行い、内容については、実践を交流し、より効果的な活用となるようにする。
				② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。		
				集計		